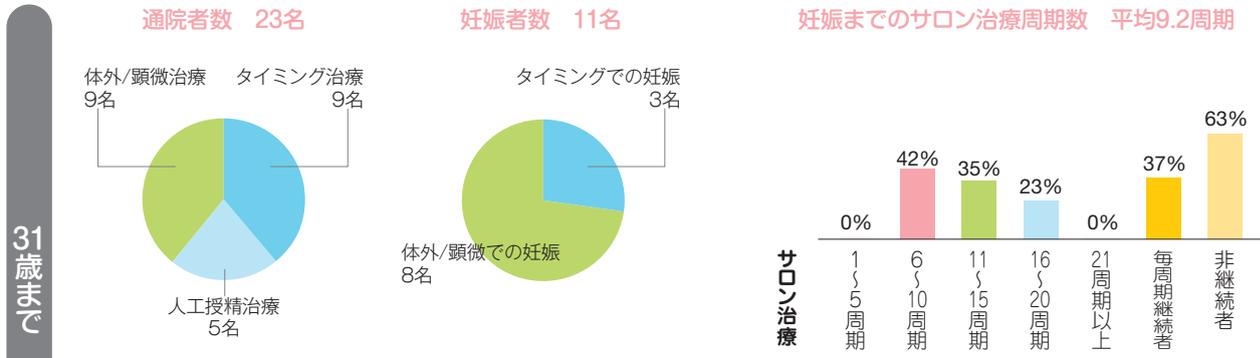


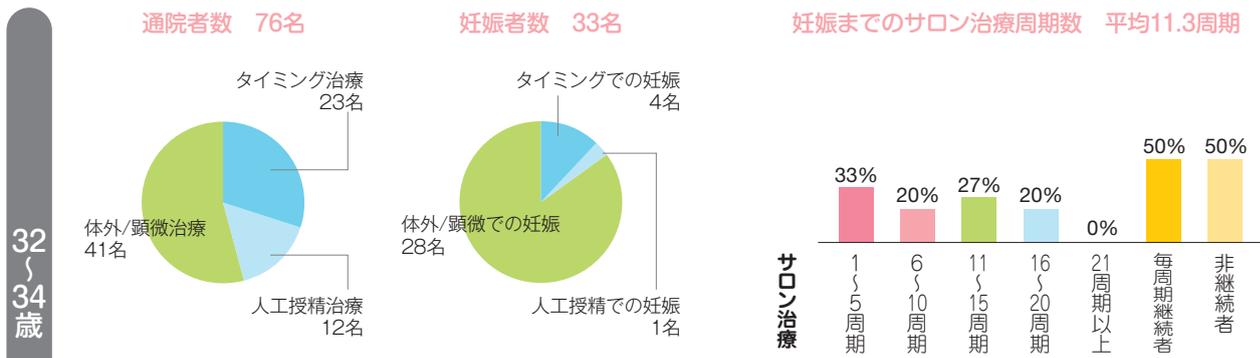
2010年4月から2011年3月までのサロン妊娠率実績

2010年度サロン治療周期数別妊娠率 一年齢別表示 (タイミング、人工授精、体外受精・顕微授精、全治療536名対象)



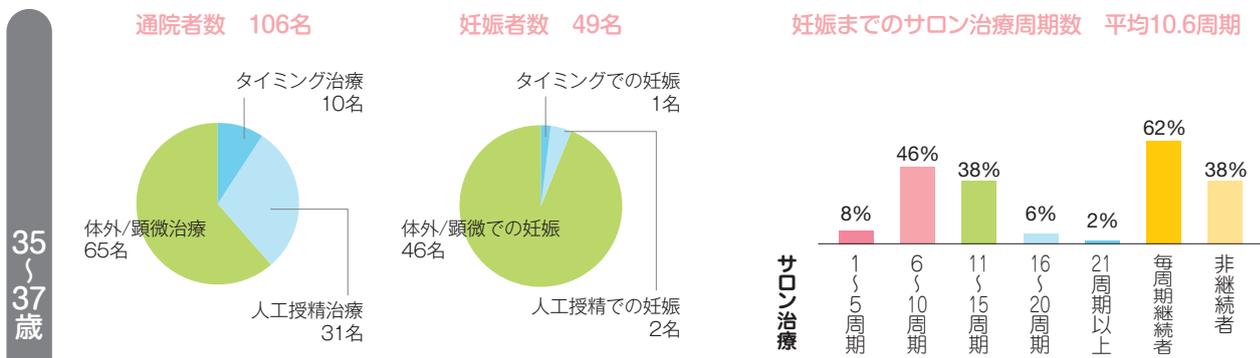
医師のコメント

31歳まではホルモ的にも安定している時期で、排卵のメカニズムに大きな狂いはありません。しかし、ストレスや一部分分泌系のアンバランスが卵巣への血流低下を招くことがあります。前胎状卵胞の発育には、ホルモン以外の発育因子が確認されており、その中の血管新生物質を含むいくつかの非ホルモンは周期的な刺激により卵胞の発育を促進します。ボンスクイズは骨髄を刺激することにより、血管の新生に促進的に働き、卵巣内レセプターの活性化を引きおこすことにより良好成熟卵子を産生します。31歳以下の場合には、6周期目以降からの妊娠者が多いことから成熟卵胞形成に必要な刺激が3～5周期の間に完成し、良好卵子が発育されることが考えられます。



医師のコメント

①良い卵子の発育には、下垂体から十分なホルモンが血液中に分泌され、卵巣内にあるアトラールフォリクルが反応することがポイントです。
②卵子の発育は4～6か月前からのFSH刺激が必要とされており、6周期以上の継続が不可欠です。それ以上の継続は非継続者であっても50%の妊娠者があることから、初期の継続実施以降はランダム実施であっても効果は認められています。



医師のコメント

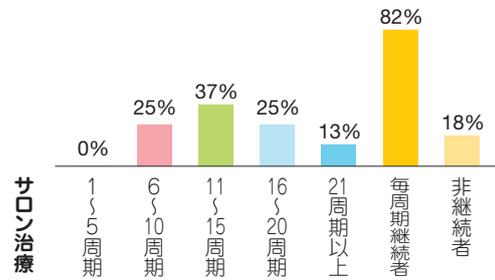
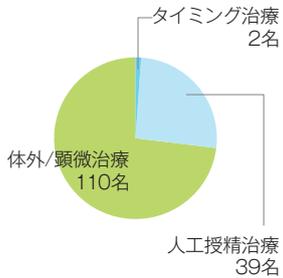
現在、体外受精であれば妊娠率は35歳までは変化がないと考えられており、それを越えるこの年齢からは毎週期の継続が結果に反映されていきます。

38
~
40歳

通院者数 151名

妊娠者数 32名

妊娠までのサロン治療周期数 平均13.5周期



医師のコメント

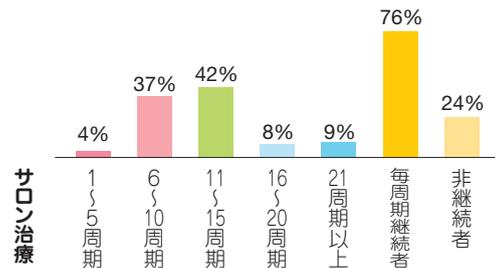
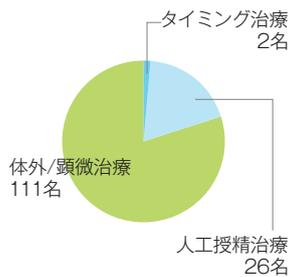
ボーンスクイズによる骨髄刺激で骨盤内血流を増加させても、その環境維持が難しくなるのがこの頃の年齢です。前の施術を無駄にしないためにも周期内の回数を増やすことよりも、毎周期継続することを第一優先にし、採卵周期などポイントとなる周期はガイドラインに沿った通院をしましょう。

40
~
43歳

通院者数 139名

妊娠者数 26名

妊娠までのサロン治療周期数 平均10.2周期



医師のコメント

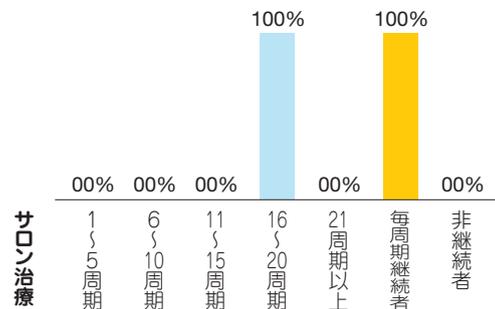
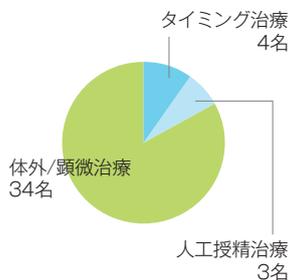
今回のデータでは38~40歳の方々と大きな変化はありません。これは、ボーンスクイズが妊娠力を引き上げている可能性を示唆しています。

44歳以上

通院者数 41名

妊娠者数 1名

妊娠までのサロン治療周期数 平均19.0周期

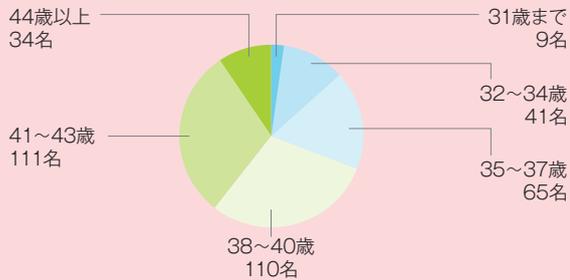


医師のコメント

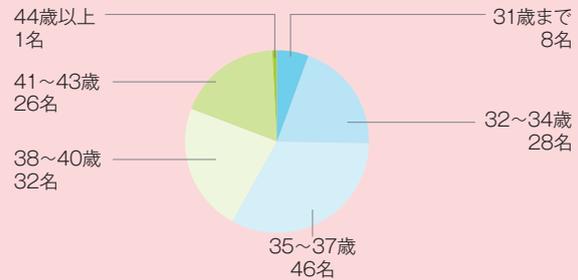
44歳以上の方の場合には、サロン開始前にAMH（卵巣予備能）の検査を受けていただき効果を予想することもお勧めします。卵巣予備能の低下は個人差があるため個人の卵巣予備能に適した治療法の選択や治療計画のために測定は有効です。ただ結果によっては精神的な負担もありますのでセラピストにご相談下さい。

体外受精

■通院者数 370名



■妊娠者数 141名

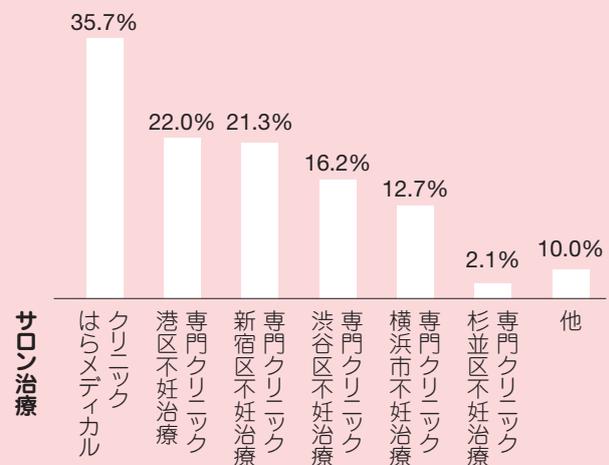


■回数別（周期別）累積妊娠表

2010年度に体外受精・顕微授精で妊娠された方の胚移植最多回数は16回のため16回が累積の100%として表示されます。皆様からよくご質問いただき、「何回目の胚移植までに妊娠される方が多いですか?」というご質問への回答が以下のデータとなります。

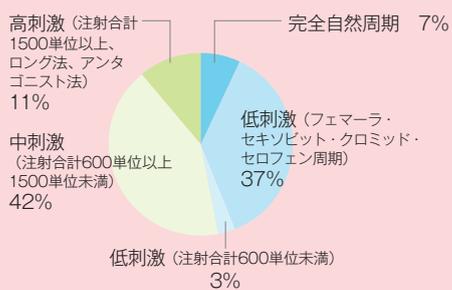


■通院クリニックの割合

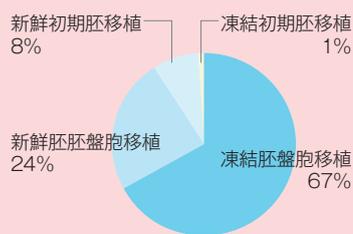


■妊娠された方のデータ

1 排卵誘発方法



2 移植胚レベル



医師のコメント

現在多くの施設では、SET（胚盤胞1個移植）を行っており、また、OHSS（卵巣過剰刺激症候群）を未然に防ぐ目的で卵巣への負担を出来るだけ軽減した排卵誘発法が主流になりつつあります。そのため、ポンスクイズを受けられる方の42%は中刺激法により排卵誘発が行われています。

移植胚に関しては、凍結胚盤胞移植が多く行われるようになりました。これは凍結胚盤胞が世界基準であり妊娠率が最も高い胚移植方法であるばかりでなく、副作用なども最も少ない方法だからです。

移植方法は、3つの方法がありますが、いずれも妊娠率に有意な差はありません。お仕事の都合、薬剤の感受性などを参考にしながら決定します。

3 移植方法

移植方法		%
自然周期		21.0%
低刺激	[経口薬] セキシピット、クロミフェン、フェマラ、アリミデックス など	37.0%
	[注射] ゴナピュール、フォルリモンP、フェリング、フォリスチム、ゴナール など	
ホルモン補充 (調整)	[経口薬] エストリール、ジュリナ、プラノバル、ソフィア など	42.0%
	[貼薬] エストラーナ など	
	[坐薬] プロゲステロン坐薬 など	
	[注射] EPデボ、ルテウム など	

人工授精

回数別（周期別）累積妊娠表

2010年度に人工授精で妊娠された方の最多回数は9回のため8回が累積の100%として表示されます。皆様からよくご質問いただき、「何回目の人工授精までに妊娠される方が多いですか？」というご質問への回答が以下のデータとなります。



医師のコメント

人工授精による妊娠は、35歳以下であれば3回目までに妊娠される場合がほとんどです。3回目以降は妊娠率は横ばいで9回目以降の妊娠はほとんど望めないのが現状です。

35歳以下では、2~3回目までは自然排卵による人工授精を行い、その後誘発剤使用による人工授精を数回行い妊娠が認められない場合には、体外受精を考慮します。

女性の年齢が35歳以上の場合には、人工授精による妊娠の成立は3~5回が限界と言えます。

タイミング療法

回数別（周期別）累積妊娠表

複合治療の方が多くタイミング療法だけという方の統計処理は出来ませんでした。

医師のコメント

通院中は常に排卵を確認しながら治療しています。ですから、タイミング療法は特別な治療法ではなく毎月の妊娠のチャンスを逃さないための検査・治療法です。人工授精や体外受精を行わない周期でも、排卵時期を確定しタイミングを指導いたします。

体外受精後、卵管造影検査後のタイミング指導による妊娠例が多くあります。

報告を受けた副作用

・ボーンスクイズ

症 状	発生率
ボーンスクイズ施術中、痛みが原因による患者様希望途中中止	0%
ボーンスクイズ施術中、セラピスト判断による途中中止	0%
初回時、ボーンスクイズ後皮下出血(あざ等)の出現—軽度	5~7%
初回時、ボーンスクイズ後皮下出血(あざ等)の出現—広範囲	1~2%
2回目以降、ボーンスクイズ後皮下出血(あざ等)の出現—軽度	1%以下
2回目以降、ボーンスクイズ後皮下出血(あざ等)の出現—広範囲	1%以下
ボーンスクイズ後跛行	0%
ボーンスクイズ施術後数日間の筋肉痛	多数
ボーンスクイズに関する事故	0件

・鍼治療

症 状	発生率
鍼治療による副作用、および事故	0件